



河小だより



四日市市立河原田小学校
学校通信 第37号
令和5年 2月16日(木)
文責 校長 鳥居 純樹

2011年東日本大震災が起きてから早12年。日本では復興が少しずつ進んでいますが、復興とともに記憶が風化することなく、防災活動に取り組んでいく必要があります。先日トルコとシリアの国境付近での大地震は、東日本大震災を超える死者・行方不明者を記録しました。遠い国の出来事にとらえず、私たちの周りでも、災害はいつ起きるかわかりません。自分の命や家族の命を守るようにどのように行動すればよいのか考える機会としてほしいと思います。

人権作文の発表

2月12日(日)河原田小学校で四日市市南部ブロック人権教育連絡協議会主催「人権ひろば」が開催されました。

第1部では、内部地区、楠地区、塩浜地区、日永地区、河原田地区から代表して小学校6年生、中学校1年生の人権作文の発表がありました。

本校からは6年[]さんが「普通」「当たり前」はない」という人権作文を発表しました。その中で「男の子だからボールを投げるのは得意だろう」という偏った見方で見ていた自分が、6年生になり人権についての学習を通して「男の子でもボールを投げるのが苦手な子もいる」と自分の見方が変化した体験について発表しました。

家庭でも「男の子だから強くなると」「男の子だから泣かない」「男の子らしく」「女の子らしく」という声掛けをしていませんか？国会論議でもLGBTQが話題となっています。SDGsの17のゴールの中には「ジェンダーの平等」や「人や国の不平等の是正」という目標が設けられています。日本国内でも多様性が求められています。また第2部の講演でも男女の格差が就労や給与面でもあることが話されていました。子どもたちとともに様々な問題を考えることで、少しでも社会構造の問題を解決できるように取り組んでいきたいと思ひます。

他校の発表では、国籍や障害による差別、いじめ問題など多様な人権問題について発表されました。人権についての問題は、差別される側の問題ではなく、差別する側の問題であります。周囲の人とのかかりによって、改めて知ること、初めて知ることもあります。周りの人が言っていることではなく、自分の体験を通して周囲の人と関係をつくれるようになってほしいと思ひます。SDGsの目標は、「誰一人取り残すことなく」です。

人権とは「幸せにくらす権利」です。その権利を周囲の人が尊重し合い、一人一人が幸せに生きられるような社会にしていきたいものです。

6年生を送る会について

今年度の6年生を送る会も昨年度同様、各学年で6年生へのお祝いムービーを作成し、6年生に見てもらおう形式となりました。リハーサル等での保護者への公開は次年度以降に検討させていただきます。ご理解いただきますようお願いいたします。



SNS の利用について

学校評価のアンケートにも項目がありましたが、スマホやタブレットの子どもたちの所有率は93.9%とほとんどの子どもたちがスマホ等の機器をもっています。

スマホでの活用はYouTubeを見たり、メールをしたりと様々ですが、SNSの使用について気になることがあり、今回取り上げました。

	ルールを守っている	ルールを守っていない	もっていない
学校評価での回答	84.9%	13.7%	6.1%
全国学力・学習状況調査での回答	53.7%	43.9%	2.4%

上の表はルールを守っているかどうかの結果です。全国学力・学習状況調査は6年生だけの結果ですが、学校評価で保護者の皆さんが評価したこととずれがあります。子どもたちの調査では、「約束がない」という回答が26.8%でした。

スマホやタブレットは今や必需品となってきています。活用することで大変便利にまた瞬時に連絡などを伝えることができます。しかし、その反面、そのことによりいじめにつながったり、人を傷つけたという事案が発生しています。

LINEでグループを作ることで短時間に大勢に連絡することができて大変便利です。クラブの持ち物や集合場所など連絡することなどに便利です。

しかし、グループLINEで自分には関係のないことがつぶやかれていたり、悪口を言われていたりしたらどう感じるでしょうか？また人の悪口をいうためだけのグループLINEが作られていたらどうしますか？子どもたちは冗談半分でつぶやいていたかもしれませんが、つぶやいたことは消すことはできません。

また言いたいことがあれば、対面で話をして気持ちをぶつけることも必要です。顔を見て話すことで感情も出て言葉だけではなく、気持ちも表面に現れてきます。コロナ禍の影響で対面して話す機会も少なくなったこともあるでしょうが、大切な気持ちを伝えるには、メールなどではなく、話をしていくことが大切だと考えています。話した言葉は忘れられてもメールやLINEでの言葉はずっと残っていて画面を見た人の記憶に残っていきます。本当に大切な気持ちや思いは、その人に直接伝えていきたいものです。

子どもたちだけでなく、私たち大人にとってもスマホは大切なツールの一つになっています。便利に活用するためには、相手を傷つけていないか、相手を尊重しているのかという視点でふりかえり、LINEやメールを送信してほしいと思います。便利で大切なツールが人を傷つける武器にかえないようにしてほしいと思います。また周囲の人も傍観者にならないようにしてほしいと思います。人を傷つける言葉を知っていながら見ているだけでは、加害者にもなってしまうことがあります。

保護者の皆さまには、今一度スマホ等のルールを話し合ってください、時には子どもたちの使い方を見守っていただき、子どもたちがより便利に、生活を豊かにできるように活用していただきますよう話し合ってください。

学校においてもネットモラルやSNSの使い方についても学年に応じて指導していきます。

